

## 社長の 住まいの雑学

居きる～生かされる～生き延びる

人の暮らしは、様々な建物で、住まい、暮らしています。

それが何であれ、そこには長い歴史の日本文化である木と触れ合いながら、生活に溶け込んでいるようであります。

大地の自然に生きる時、その自然に最も相応しい環境や触れ合いが必要であることを少し忘れていた気がしています。いつも健康～いつまでも健康で有りたいのは誰しも同じ思いです。しかし、時にはケガもし、カゼも引き、頭痛もし、腹も痛くなり、いろんな事が体を襲う時があります。赤ちゃんから子供へ、子供から青少年、成年へと成長する過程において、少しでも自然的な環境の中で育ってほしいのは、多くの方々が望んでいる事と思います。私達住まいにたずさわる関係者にも、昔ながらの土壁の家、わら葺きの家などで育った人がまだおられます。現在の熟成された社会の中でこれからも生活していく住まいでは、できる限り、自然素材を感じる中で寝食を過ごす事ができれば、と強く感じています。

又、現存する建物で古民家と呼ばれるのは、人で言う還暦よりもまだ10年も若く50年を過ぎたものを古民家と言われますが、まだまだリタイア年齢

(解体も含め)ではありませんので、これから先60年～70年、少なくとも80年～100年近くも活かされる事ができるのですから、住まう人が仲良く暮らす事を忘れなければ、共に健康で明るい生活が過ごせるのではないのでしょうか。大規模な改修・リノベーションから小規模リフォームでさらに大切に生かしてもらいたいと思います。